

巻頭言

本冊子は、平成 20 年度の文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」で採択された同志社大学社会学部の取組「相互啓発による創造的学力育成カリキュラムー学生による評価と相互チュータリングの試みー」の一環として平成 20 年度に実施した「第一回卒業生アンケート」の全体結果の報告書です。

「相互啓発による創造的学力育成カリキュラム」は、様々な課題に自由な発想で取り組み、既成の知識を編集し、新しい知識を生み出し説得的に表現する、創造的学力の育成を目指して、導入教育、副専攻科目、卒業研究を、4 年一貫の共通カリキュラムとしてとらえ直し、効果的に連関させることで、学生たちの学習への目的意識を喚起することを目標としています。

具体的には、導入教育においては、上級生チューターが助言者として活動しながら、主張型レポートおよび問題解決の方法を 1 年間しっかり学ぶことによって、自立的な学習者としての基礎を形成します。2~3 年生は、チューターや大学院生が助言者として活動する専門基礎教育クラスのなかで、主体的な学習者として学びのコミュニティづくりに積極的にかかわります。4 年生では、卒業論文のクラス代表の学生幹事会を中心に、研究のプロセスと成果を、ホームページや発表会という多様なメディアを通じて、特に下級生に向けて蓄積し発信します。本取組では、それぞれのクラスにおいて関わるチューターも教員の補助だけでなく、クラスの中核として、下級生をサポートし、かつリードするという経験を通じて、成長することが期待されます。すなわち、学ぶ側の学生と下級生をサポートするチューターも学習者として成長するという相互啓発が重要な概念となっています。

次に、こうした取組を評価し、その結果を検証し、さらに改善へと結び付けていく仕組みが必要となりますが、卒業生アンケート調査はそうした仕組みを間接的に評価していく意味を持っています。社会学部学生の大学での学びの効果を客観的に分析し、そうしたエビデンスに基づいて取組の改善、あるいはカリキュラムや教授法の改善に結び付けていくことが可能になると考えられます。

この調査に当たっては、平成 21 年 3 月 20 日の卒業式当日に、各学科のご協力を得て調査を実施し、同日に調査票を回収いたしました。多くの学生が学生 ID による記名式で回答してくれるといううれしい結果となりました。そうした貴重なデータ全体を用いての分析が、その後 GP 評価委員会と連携する大学院生を中心とするアカデミックアドバイザーグループによってに進められ、今回まとめられたのが、この全体結果報告書です。

本取組では今回の結果を踏まえ、今年度も卒業生調査を実施することにしています。

本調査に協力いただきました学生各位に感謝するとともに、本報告書が様々な形で活用されることを願ってやみません。

平成 22 年 3 月

社会学部 GP 評価委員会委員長 山田礼子